

# 上条 報告

第61号  
平成26年6月

甲州市教育委員会  
☎32-5097

## 全国伝統的建造物群保存地区協議会

### 総会・研修会に参加しました

第三十六回を数える全国伝統的建造物群保存地区協議会の総会と研修会が、福井県若狭町と町内に所在する重伝建地区・熊川宿で開催されました。甲州市はまだ協議会に加盟していませんが、四月から保存条例が施行されたことで、参加のお誘いがありました。

総会・研修会は五月二十二日（木）から二十四日（土）の三日間開催され、北は青森県弘前市、南は沖縄県竹富町まで、全国から過去最多の三七〇名の参加がありました。

これまでの三十五回は関係市で開催していましたが、今回は初の関係町での開催となり、若狭町の歓迎振りにはとても力が入っていました。今号はその様子と、熊川宿をご紹介します。



上：熊川宿の町並み 下：満員の研修会場

## 「全国伝統的建造物群保存地区協議会」

重要伝統的建造物群保存地区は、本年五月の答申で新たに二件増え、現在一〇六地区あります。協議会には、重伝建地区が所在する市町村が加盟しており、総会は年に一度開催されます。また総会にあわせて研修会もあり、こちらは行政関係者の研修と、重伝建地区に住まいされている方々（住民）を対象とした研修に分かれますが、記念講演会や重伝建地区見学会は合同で開催されます。

普段は各ブロックで情報交換や研修会を開催しており、甲州市でも平成二十一年度から関東甲信越静ブロック会議に参加しており、研修会の様子は上条報告で紹介しているところです。

今回の大会は、初めての町での開催となり、若狭町では三日間の運営に大変苦労されたようです。三七〇名の参加者をいくつかの班に分けて研修を行うにも、会議室が不足しているため複数の会場を同時に使用したり、伝建地区内の小学校の体育館を使用して、見学会時の昼食場所や情報交換会場にしたりなど、相当知恵をしばったことと思います。ですが役割分担がしつかりしていたためか、滞りなく全体が運営されました。



伝建地区で説明してくれた熊川小学生。



行政担当者を対象とした実務研修会。

## 若狭町熊川宿（宿場町）

所在地	福井県三方上中郡若狭町熊川及び新道の各一部
種別	宿場町
条例制定年月日	平成七年一〇月一日
選定年月日	平成八年七月九日
地区面積	約一〇・八ヘクタール
保存物件数	建築物 二一四件 工作物 一三二件 環境物件 二二件

### 【地区の歴史】

豊臣秀吉に重用された浅野長政は、若狭の領主となった後、天正十七年（一五八九）に熊川を交通と軍事の要衝として諸役を免除し、宿場町としました。それまで四〇戸ほどの寒村だった熊川は、二〇〇戸を越える町として発展し、特に京への上り荷物（米、大豆など）で賑わいました。十八世紀になると、若狭の海で獲れた鯖を京へ輸送する道として「鯖街道」と称され、広く知られるようになりました。

若狭から南下して熊川宿を過ぎると峠に至り、そこから坂を下るとすぐに琵琶湖です。琵琶湖の水運を使い、京へ大量の物資が運ばれていきました。

町並みは、京都よりから上ノ町・中ノ町・下ノ町に分かれ、北川に沿って一一〇〇メートルにわたり展開しています。民家は、平入り、妻入り、真壁造、塗籠造などが混在し、土蔵とともにバラエティーに富んだ歴史的景観が保存されています。街道に沿って流れる前川（用水路）も、熊川宿の景観を特徴付けるものとして貴重です。

## 【まちなみ保存】

昭和五十年に福井大学の教授が熊川宿の町並みに注目し、五十六年には保存対策調査が行われました。さらに六十年には日本ナショナルトラストも調査に入っています。

地元では、五十六年に「熊川宿町並みを守る会」が発足し、その後「熊川宿町並み保存特別委員会」と名前を変え、平成七年からは「若狭熊川宿まちづくり特別委員会」として活動されています。「保存」から「まちづくり」へ、目的を変えながら活動を進めてきました。

また、近くの熊川小学校では児童によるまちづくりを積極的に行い、伝建地区内の建造物や歴史のガイド活動をしています。二十三日に行われた熊川宿の視察でも、小学生が自分たちで作成した資料をもとに説明をしてくれました。現在の児童数は二十名だそうです。

## 【建物の特徴】

建物は多種多様です。町屋の造りで古いものは二階が低い「厨子(つし)二階」というもので、その後「本二階」という二階も高い形式に代わります。また、火災が多かったことから柱まで土で塗りこむ「塗籠(込)造」が発達し、塗籠造の建物には通りに平行して棟を延ばす「平入り」と、通りに直角に棟を延ばす「妻入



伝建地区の説明をするガイド員の方々。



地元の英雄について解説する小学生。

り」があり、平入りの建物には隣家からの延焼を防止するための「袖壁卯建」をもつものもあります。これらの異なる形式の町並みが続き、さしたる統一感がなっているのは茨城県桜川市の真壁地区と同じですが、町並みの連続性は熊川宿のほうが優れています。



上: 厨子二階 下: 本二階



上: 塗籠造 下: 茅葺と妻入り建物



前川と呼ばれる用水路と、前川にかかる「かわと」という石組みの洗い場も特定物件です。

## 上条集落の見学会開催

四月二十四日の説明会のおりにお願いをしまして、実際に集落を歩いてみて、どういった建物があり、どういう価値があるのかという説明会を、五月三日に開催しました。前回の説明会に引き続き、多くの皆様方のご参加をいただきました。

今回は、茅葺切妻造の主屋があるお宅を中心にみてみるということで、観音堂に集合し、組長宅から順次みさせていただきました。

上条集落に限らず、峡東地域の屋敷構えは、豊富な附属屋が所在することが一つの特徴です。附属屋には蚕室も含まれ、養蚕に特化した切妻造主屋とあわせて、いかに養蚕が生活様式にまで影響を及ぼしていたかが分かります。

皆様方には、農作業の忙しくなる時期にお集まりいただき、ありがとうございます。



説明会のおり撮影した、菜の花と石垣と情報館の妻壁。優れた景観です。

京都府南丹市美山町北集落の例。茅葺の集落内のいたるところに花が植えられ、来訪者の目を楽しませています。

